

BESTIE

取扱い説明書

(株)アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

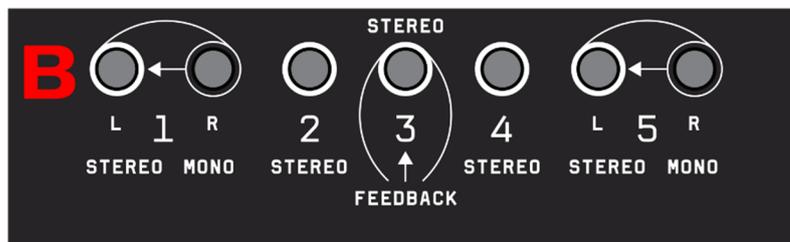
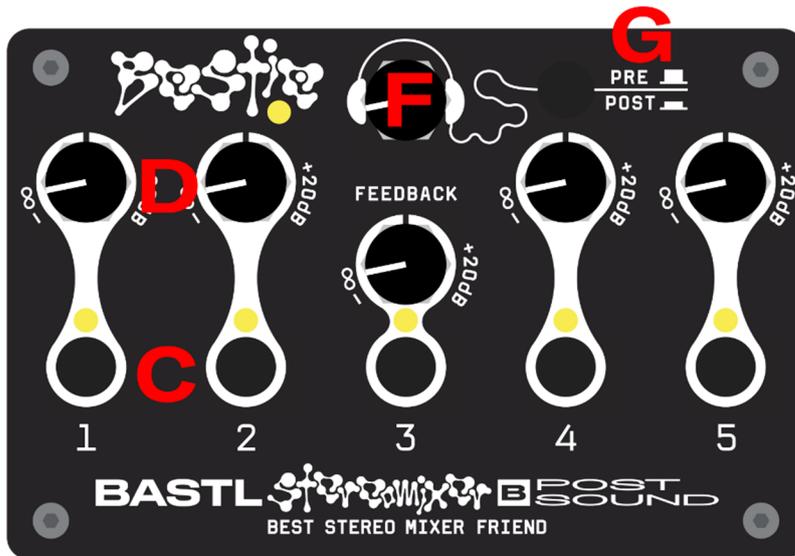
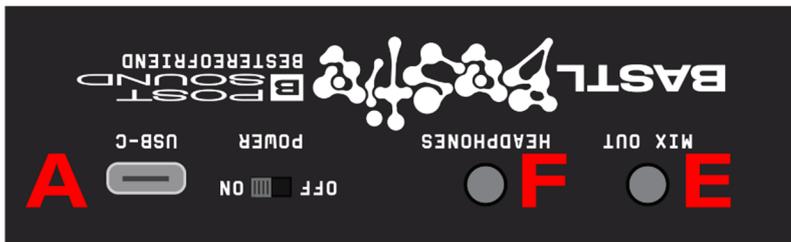
BESTIE は、最大 20dB のブースト、チャンネル毎のミュートスイッチ、柔軟な接続を可能にする 5 チャンネルの小型ステレオミキサーです。

独立したミックス出力とヘッドホン出力を持ち、電源は USB または電池駆動に対応しています。

レベルノブは、12 時位置で 0dB、フルで +20dB となり、ブースト方向では美しいサチュレーション（オーバードライブ）が得られます。

さらに ch3 は「フィードバックチャンネル」として利用することが可能。あなたは官能的なフィードバックを演奏する事だってできるのです！

BESTIE は便利でクリーンなポータブル・ステレオミキサーであると同時に、倍音やフィードバックを操る司令塔でもあるのです。



A パワーアップ

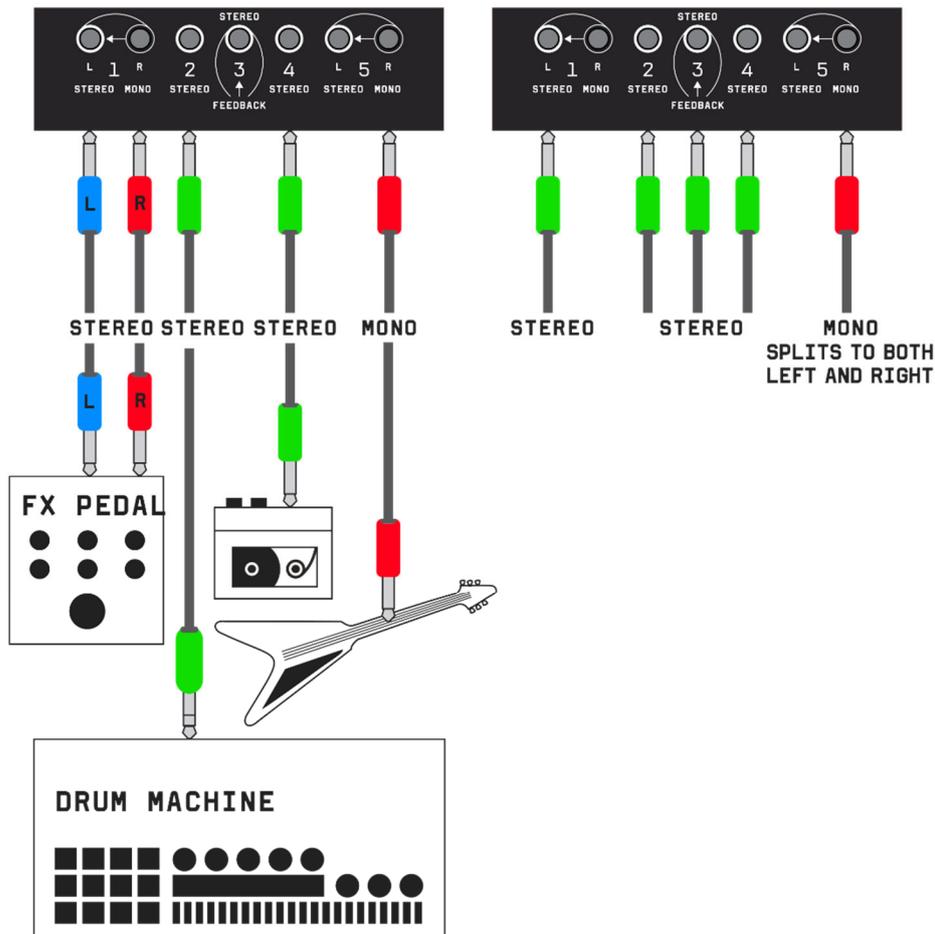
USB-C、または単3形乾電池4本で駆動します。電源スイッチをONにすると、フロントパネルのBestieという名前の下のライトが点灯します。

注意： USB-C 入力は単三電池より優先されます。

B 入力

- INPUT 2、3、4 は 3.5mm ステレオジャック入力です (ステレオラインレベル)
- チャンネル 1 と 5 には、柔軟なルーティングオプションがあります：1 R 入力にモノラルジャックを接続するだけで、L 入口にノーマライズされ、左右両方のチャンネルで同じモノラル信号を聞くことができます。
- L 入口にモノラルの L チャンネル信号を、R 入口にモノラルの R チャンネル信号を接続すると、独立したコネクタでステレオ信号を入力できます。
- ステレオジャックを L 入口に接続し、ステレオ信号を得ることができます。チャンネル 2、3、4 と同じように動作します。
- すべての入力は AC カップリングです。

EXAMPLES OF CONNECTING DIFFERENT STEREO / MONO SOURCES



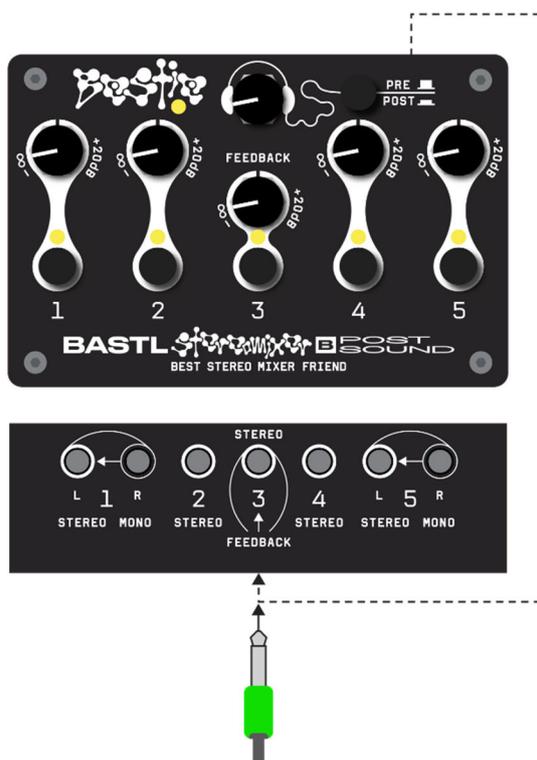
フィードバックチャンネル

チャンネル 3 はフィードバックチャンネルとしても機能します。つまり、出力を入力に戻すようにルーティングされています。チャンネル 3 のインプットに何かを接続すると、通常のインプットチャンネルとして機能するようになります。

チャンネル 3 をフィードバックチャンネルとして使用する場合、12 時位置より前のレベルは歪みとゲインコントロールとして機能します。0 dB を超えてブーストしていくとセルフオシレーションが始まり、チャンネルがさらに増幅されていくと更に深いフィードバックトーンをクリエイトできます。最大設定付近ではトレモロのようなエフェクトが発生する場合があります。

Bastl Instruments と Casper Electronics のサウンド美学は、「ノー・インプット・ミキシング・テクニック」に大いに影響されています。これは、ミキシングコンソールで出力を入力に戻し、ゲインや EQ を使ってさまざまな音色やノイズを作り出す手法です。このフィードバック信号にドラムトラックなどが割り込むと、オーガニックで魅力的な結果が生まれます。フィードバック音と相互作用して、優位性を競い合います。Bestie で回路をオーバーロードして信号を狂わせることは最高に楽しいです！

CHANNEL 3 BEHAVES AS IF THERE WAS A CABLE GOING FROM THE OUTPUT TO CHANNEL 3 INPUT. REMOVE THIS FEEDBACK LOOP BY PLUGGING ANY CABLE INTO THE CHANNEL 3 INPUT



C ミュート

ミュートスイッチを押すと、チャンネルをミュートすることが可能です。ランプが点灯しているときは、そのチャンネルが有効であることを意味し、ランプが消灯しているときは無効であることを意味します。また、少し押すと一時的にミュートを解除した状態にすることもできます。

D レベル/ブースト

レベルノブを使って、各入力チャンネルのゲインを設定します。12 時位置でゲインは 0dB（入力と同じレベル）です。最大位置で+20dB（10 倍のゲイン）になります。信号を 12 時位置よりブーストしていくと美しいサチュレーション/倍音が得られます。クリーンなミックスを得るにはレベルノブを 12 時以下でミックスしてください。つまり BESTIE では、クリーンなミックスから、オーバードライブしたサウンドまで完全にこなすことができます。

E ミックスアウト

チャンネルの MIX OUT（ラインレベル出力）です。

F ヘッドホン

独立したヘッドホン専用の出力が用意されています。ハイインピーダンスヘッドホンを含む幅広い種類のヘッドホンを駆動することができます。ヘッドフォン・ノブでヘッドフォンの音量が設定できます。ヘッドフォン・ノブは信号レベルをブーストすることもできるため、ミックスダウン・オーバードライブとしても利用できます！

G プリ/ポスト ミュート・ヘッドホンスイッチ

このスイッチは、ヘッドホン出力がミュートスイッチの前（PRE）と後（POST）のどちらのミックスダウンを聴くかを選択します。これは、ヘッドホン出力ですべての信号を聴きながら、一部の信号（ミュートされていないもの）だけをメイン出力に送る場合に便利です。メイン MIX OUT に送る前に、いくつかのチャンネルをあらかじめ聴いておくために使用できます。

TIP: チャンネル 3 をフィードバックチャンネルとして使用し（チャンネル 3 インプットに何も接続しない）、ヘッドフォン・スイッチが PRE ポジションの場合、ミュートされたチャンネル 3 のレベルは、MIX OUT 信号とミックスされ、ヘッドフォン出力をさらに押し上げます。これにより、フィードバックを伴

わないオーバードライブのキャラクターを追加することができます。チャンネル3がミュートされていない場合、通常のフィードバックが発生します。

H

Bestie の右側にある小さなマイナスインプリでアクセスできるトリマーは、左右のチャンネルをゲインマッチさせるためにあります。ミキシング中は振幅の許容範囲が小さいためほとんどの違いはありませんが、Bestie をフィードバックさせる場合には、音色や歪みの違いを聴き取ることができます。この効果は、ステレオフィールドを広げる（ゲインを不一致にする）か、狭める（可能な限りゲインを厳密に一致させる）かのどちらかに調整することができます。

インサイドハッキング

以下のハッキングを行う場合は「製品保証が無効になる」ことにご注意ください！

1&2 ジャンパー JP1、JP2、JP3、および JP4

Bestie を分解して（ノブ、ナット、ネジを外して）、左右の大きなコンデンサの下を見ると、チャンネル1と5の両方にいくつかのハンダジャンパーがあるのがわかります。これをカットすると、チャンネルのゲインを最大+35dB（55倍）まで上げることができます。ピックアップマイクやその他の低信号デバイスを使用する際に有効です。

入力インピーダンスは22kのままです。これらのジャンパーは、ハンダを塗布することで再び閉じることもできます。

3 ジャンパー JP5 と JP6

これらのジャンパーの両方をカットすると、チャンネル3のフィードバックルーティングを無効にできます。

4 ジャンパー JP7 と JP8

これらのジャンパーの両方をカットすると、ヘッドフォン出力の最大ゲインが1.5倍から3.6倍に増加します。これは、ハイインピーダンスのヘッドフォンや、ヘッドフォン出力を使ってミックスダウンを歪ませたい場合などに有効です。



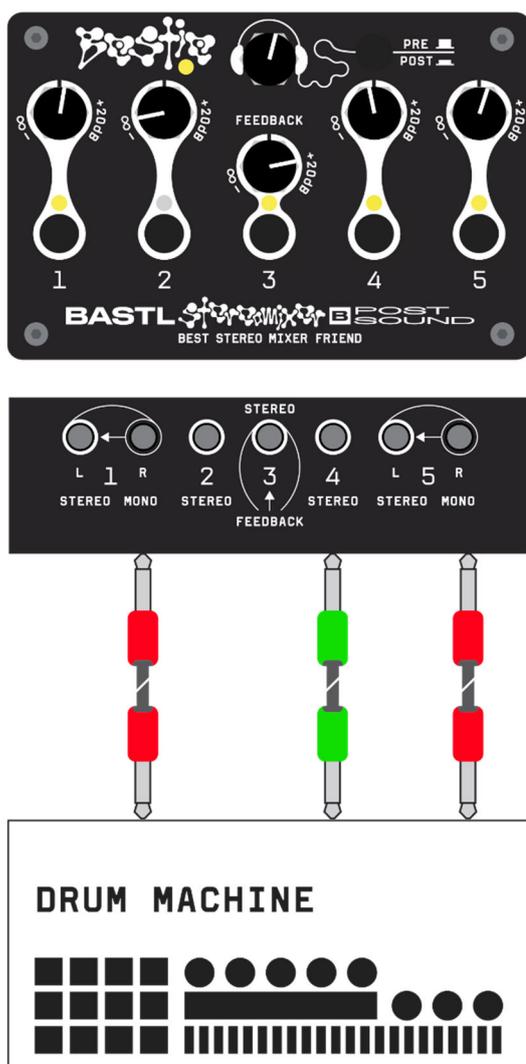
USB ノイズ、その原因と回避方法について

サウンドカードやミキサーなど一部の USB 機器では、USB のグラウンドとオーディオのグラウンドが別々になっている場合があります。一方、Bestie を含む他のデバイスは、USB とオーディオの間のグラウンドを共有しています。オーディオと USB のグラウンドを接続すると、グラウンドループが発生したり、システムにノイズが混入する可能性があります。特に、1 つ以上のデバイスがこのような接続に適していない場合（OP-Z、K-Mix、Motu M4 など）、Bestie と問題のある機器に別々の USB 電源から給電するか、バッテリーパワーオプションを使用することをお勧めします。

セットアップ例

Mixing drums with feedback:

ドラムマシンに独立した出力がある場合、Bestie でミキシングしてサチュレーションを加え、サウンドに倍音を加えて、オーバードライブさせることができます。また、BASTIE の内蔵フィードバック・チャンネルを利用してドラムマシンをダーティーに彩ることもできます！

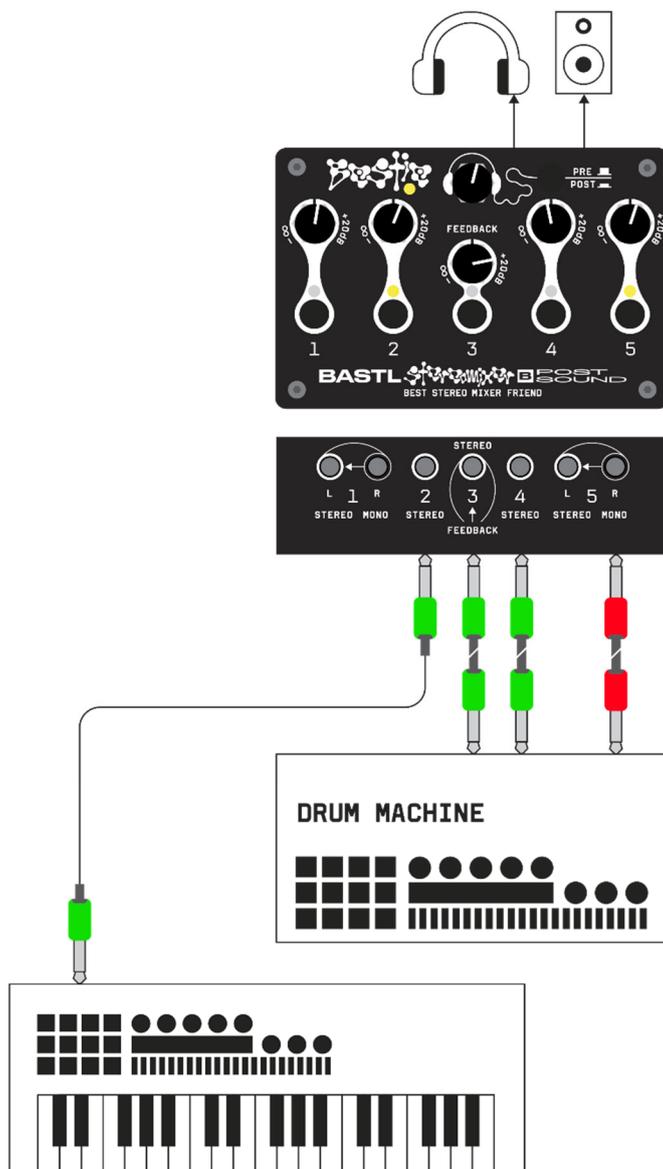


Preview different parts on headphones while muted in

the MIX OUT:

MIX OUT でミュートしたまま、ヘッドフォンで異なるパートをプレビューできます。

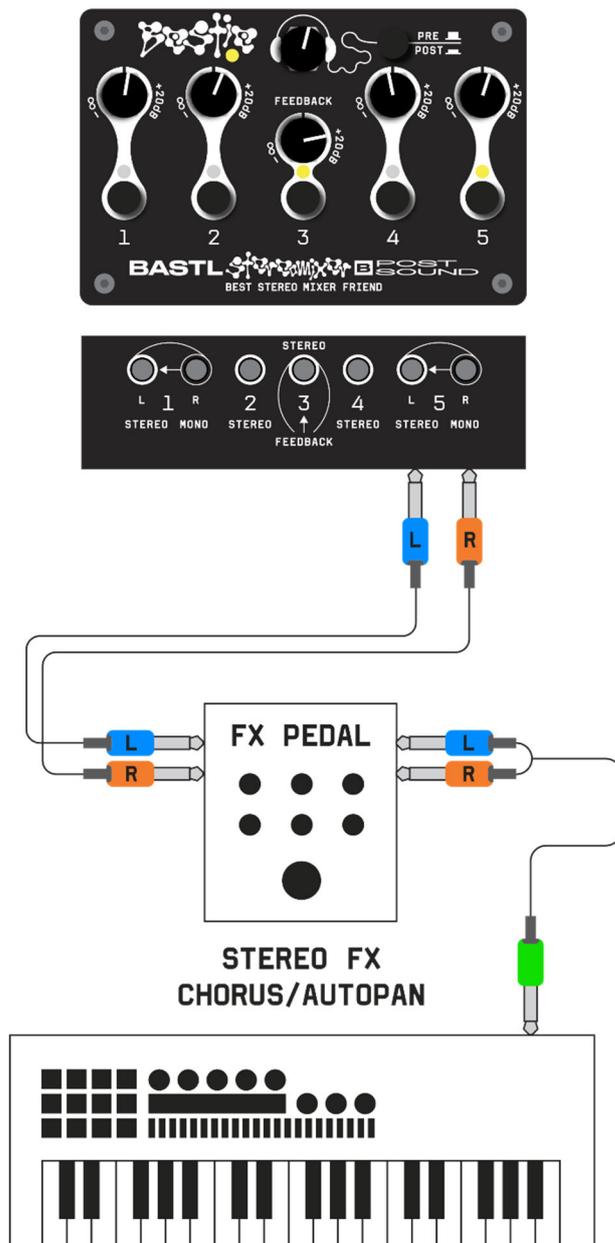
複数のシンセサイザーやドラムのパートをミックスする場合、スイッチを PRE ミュートの位置にしてヘッドホン出力を使用すると、スピーカーシステムでミュートを解除する前にすべてのチャンネルを事前に聴くことができます



Stereo saturation distortion/feedback after stereo effect:

ステレオ・サチュレーション（オーバードライブ） / ステレオエフェクト後のフィードバック：

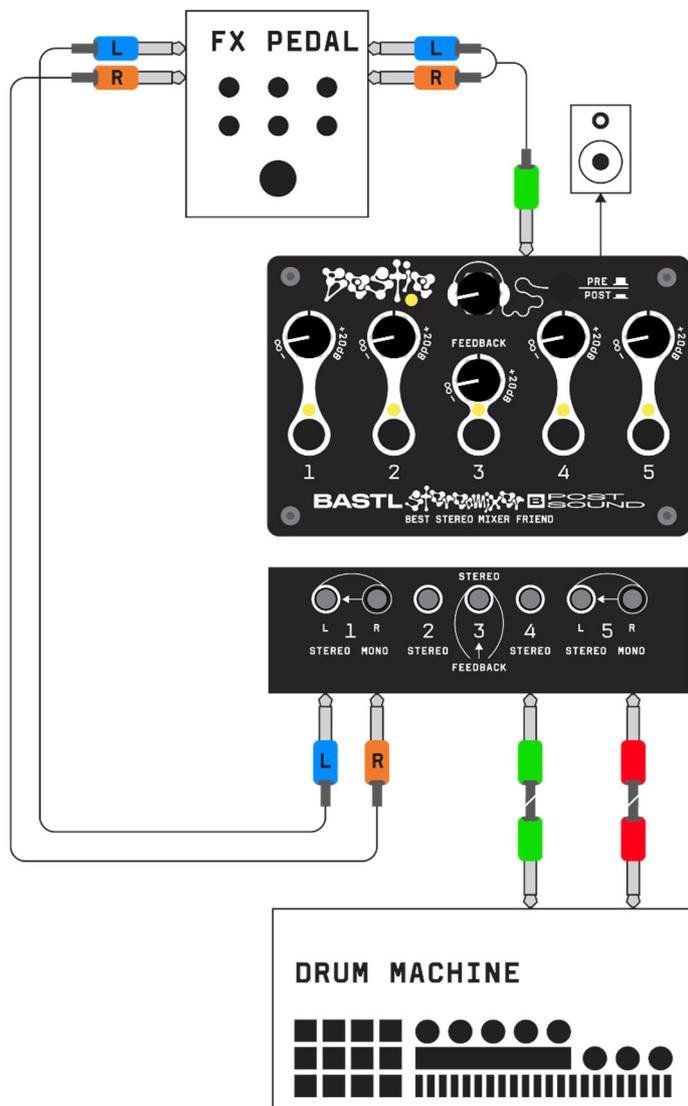
ほとんどの歪みペダルやサチュレーターはステレオではないため「ステレオ・サチュレーション」は、ハードウェア領域ではあまり評価されていない概念です。Bestieの前にステレオのオートパンエフェクトや、コーラスやその他のステレオ・モジュレーション・エフェクトを組み合わせると、とてもエレガントな複雑さを加えることができるでしょう！



Stereo feedback loop with an effect:

エフェクトを使ったステレオフィードバックループ

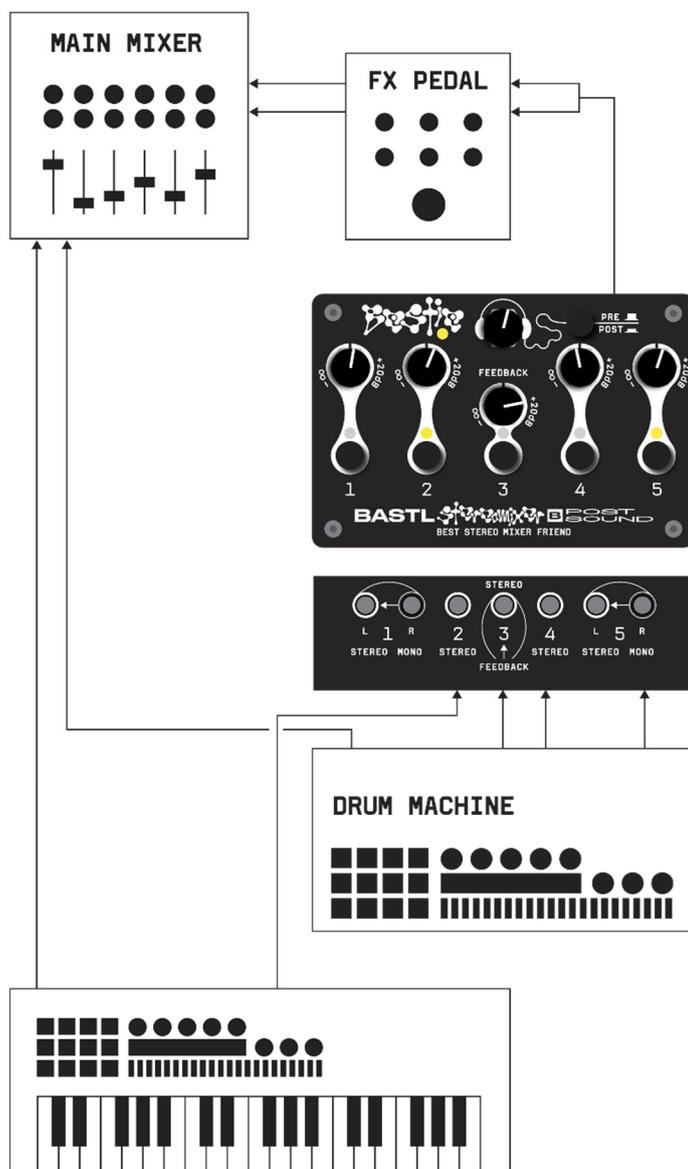
フィードバックチャンネルのアイデアを発展させるために、ヘッドフォン出力をステレオのエフェクトペダルに接続し、それを入力に戻してみましょう。このセッティングでは、エフェクトがフィードバックのトーンと動作を形成する上で大きな役割を果たすことになります。コーラス、オートパン、ディレイ、ピッチシフターなど、さまざまなオプションを試してみてください。タイムドメインのものであれば何でも効果的ですが、シンプルなEQやフィルターでも十分効果があります。実験してみましょう！ヤバい！



Use Bestie as a performative stereo aux sub-mixer:

Bestie をパフォーマンスタイプなステレオ Aux サブミキサーとして使用する :

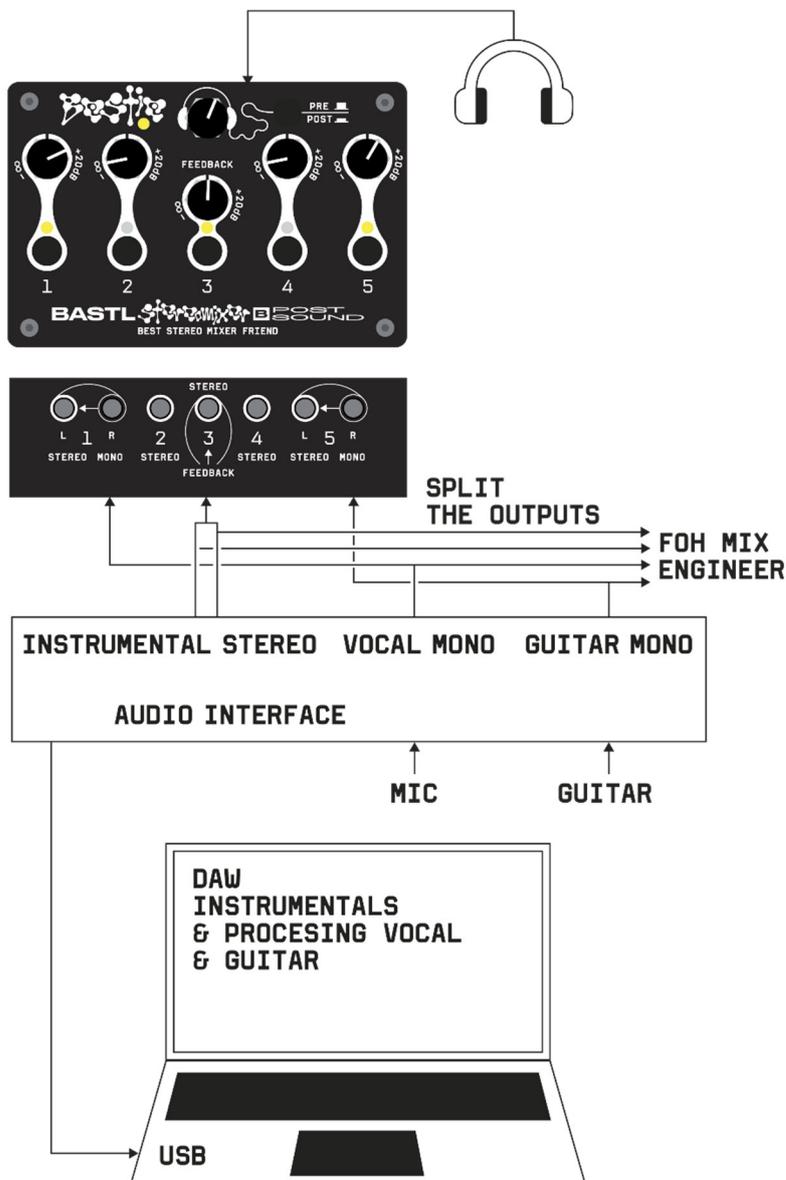
多くのアナログミキサーには、ステレオ AUX センドはありません。ステレオソースでステレオエフェクトを使用したい場合、Bestie をシンプルなステレオミキサーとして使用し、エフェクトをミキシングすると良いでしょう。また、ミュートスイッチでエフェクトのオンオフを切り替えられるので、パフォーマンスにも最適です！



Custom in-ear mixdown for live performance:

ライブパフォーマンス用のカスタムインイヤーマイクスダウン :

ライブ演奏のためのインイヤーマニターシステムが必要だが、コンピュータのオーディオインターフェースでは、独立したヘッドホンミックスダウンができない場合、Bestieを使ってこれを実現することができます。フロント・オブ・ハウス・ミキシング・エンジニアに送られるすべてのチャンネルを Bestie で分割し、独立したミキシングを行うことが可能です。



CREDITS

Development Team Václav Mach, Martin Klecl

Supervised by Václav Peloušek

Main Tester Juha Kivekäs

Beta Testers David Žáček, Milan Říha, John Dinger, Peter Edwards,

Oliver Torr, Patrik Veltruský, Niels Aras, David Herzig, Marco Menzle

Management John Dinger

Graphic design Anymade Studio

The idea turned into reality thanks to everyone at Bastl Instruments and thanks to the immense support of our fans

